

らちしゅんいち

# 良知駿一 活動報告



第4号

## ご挨拶

いつも大変お世話になっております。浜松市北区選出の県議会議員の良知駿一です。新型コロナウイルス感染症まん延の終息に向け、ご協力いただいている皆様に感謝申し上げます。議員一同、社会の現状や今後のあり方に対し、議論をつくし行政に訴えかけてまいります。令和2年度も終わりを迎えました。コロナ禍ということもあり、私の県議会の活動においては「デジタル」が中心となりました。前のご報告から3ヶ月あまりではございますが、活動をご報告させていただきます。

## 前回（第3号）の活動報告からの議会活動

前のご報告から12・2月定例会、また第7回情報通信技術利活用特別委員会がありました。2月定例会においては令和3年度当初予算編成を中心に審議が行われました。「ウィズコロナ・アフターコロナ時代の先導的な地域づくり」「人づくり・富づくりの総仕上げ」「生産性が高く持続可能な行財政運営」の方針のもと、一般会計**1兆3,094億円**（前年比+2.4%）、内新型コロナウイルス感染症対策経費537億7,600万円の予算が編成されました。

第7回情報通信技術利活用特別委員会においては、県に対する、今年度の活動を踏まえた委員会からの提言をまとめました。結果として若干表面的な提言になってしまったことが悔やまれます。今後、個人としての活動で県のICTに対する取組に提言等していきたいと考えています。

## 事務所のご案内

〒431-1304  
静岡県浜松市北区細江町中川7172-698  
ラトゥール101

静岡県議会議員

らちしゅんいち

### 良知駿一事務所

連絡先

TEL : 053-523-7400  
FAX : 053-523-7401

Mail : rachi0814@gmail.com  
URL : https://rachi-shunichi.jp/

PROFILE

- 1982年 ● 8月14日生（浜松市）
- 1995年 ● 気賀小学校 卒業
- 1998年 ● 細江中学校 卒業
- 2001年 ● 浜松商業高等学校 情報処理科 卒業
- 2005年 ● 静岡大学 情報学部情報科学科 卒業
- 2007年 ● 静岡大学大学院 情報学研究科 修了
- 浜松市内のITベンチャー企業に就職
- 2010年 ● 浜松市消防団北区支団細江第4分団 入団
- 2015年 ● 浜松市消防団北区支団細江第4分団 分団長就任
- 2017年 ● 浜松市消防団北区支団本部 大規模災害教育隊 入隊
- 2019年 ● 静岡県議会議員 初当選（浜松市北区選出）

得意分野：情報通信技術・地域防災  
趣味：バドミントン・ジム通い・ギター  
音楽鑑賞（ジャズ・山下達郎・ステイビーワンダー）

また、2月定例会では私の一般質問がありました。6項目中5項目はICT関連の質問で構成し、他の議員とは別の切り口からの質問としました。以下、一般質問や常任委員会（文教警察）の質疑内容を記載します。

## 私の一般質問

Q・要望が良知、Aが当局

**Q 【デジタル戦略局が担う役割について】**

新設されるデジタル戦略局が担う役割や、今後の取組の方向性については？

**A**

社会全体のデジタル化を推進する司令塔として、デジタル関連施策を展開するとともに、分野横断的な解決を図っていく。  
また、データの検索の利便性を高めることで、データの共有や利活用を促進するほか、業務システムの標準化や行政手続のオンライン化等に取り組み市町を支援する。（経営管理部長）

**要望**

現場が抱えている課題を吸い上げられる人材、また現場が気づかない課題解決にあたることができる人材を活用してほしい。

**Q 【スマート農業技術の現場への定着について】**

農業の担い手の減少や高齢化が進む中、経営の効率化を実現できるスマート農業技術を着実に定着させることが重要だと考えるが、所見は？

**A**

高度環境制御システム導入のための助成制度を9月補正予算で創設、引き続き導入に向けた支援を行っていく。  
JAや生産者と連携し、技術実証を通じて導入機器の検証と費用対効果の分析を行い、スマート農業技術の現場への定着を着実に進めていく。（農林水産担当部長）

**Q 【中小企業へのテレワークの普及促進について】**

中小企業へのテレワークの普及促進にどのように取り組んでいくのか？

**A**

「テレワーク等導入研究会」で得た具体的な課題や対応事例を蓄積し、その情報を広くテレワーク導入に関心のある県内企業に提供していく。  
また、業務のデジタル化の相談に応じる専門家の企業への派遣や、テレワーク導入に必要なIT設備等への助成を行っている。初めて導入を目指す企業に対しては、個別相談会や通信機器等の体験会を開催していく。テレワークや時差出勤など「新しい働き方」に対応した就業環境の整備支援にも取り組んでいく。（難波副知事）

**本会議インターネット中継**

右のQRコードからご覧ください。

**本会議会議録**

右のQRコードからご覧ください。

私の一般質問



Q・要望が良知、Aが当局

【浜名湖における水上レジャーのルールについて】

様々なマリナーレジャーを共存させ、浜名湖で多くの県民・観光客に安全なマリナーレジャーを楽しんでもらうために、水上オートバイのルールについてどのように考え、取り組んでいくか？

A

調整会議において、条例に基づく通航制限導入の必要性が総意として確認されたことから、通航制限の対象に水上オートバイを追加する静岡県河川管理規則の改正を行い、本年4月から施行することとした。
新たな規制の内容について、パンフレットやホームページ等により広く周知を図るとともに、警察や浜名湖総合環境財団等と連携しパトロールの強化など、適正利用の促進に努めている。(交通基盤部長)

その他の質問

- 消防団活動のICT化に対する支援について(危機管理監)
● スポーツ振興におけるICTの活用について(知事)

文教警察委員会での私の質問

主な質問の項目です。内容に関しては、議事録をご覧ください。

- 医療的ケアを必要とする児童生徒への対応について(12月・教育・参事兼義務教育課長)
● アカウントの管理体制について(12月・教育・ICT教育推進室長)
● 信号機のLED化について(12月・公安・交通規制課長)
● 新東名高速道路の全線6車線化(120キロ規制)に対する課題と対策(12月・公安・交通規制課長)
● 街頭補導活動について(12月・公安・少年課長)
● 県立夜間中学の設置に関して(2月・教育・義務教育課)
● 高校入試制度における内申点の取り扱いについて(2月・教育・指導監)
● 教員のコンプライアンスの推進について(2月・教育・教育総務課長)
● 水上オートバイの活用状況について(2月・公安・地域課長)

など…



委員会会議録
右のQRコードからご覧ください。

公共交通のあり方

私が議員になって取り組みたかったテーマの一つが「交通」です。交通は住民の日常生活の基本となるものです。

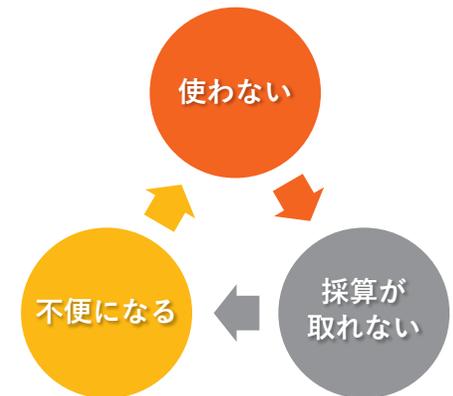
浜松市北区は、北部地域においては交通空白地、南部地域においては渋滞という両極端の課題を抱えています。

この課題に対する考え方の一つが公共交通の無料化であると考えています。公共交通は、バスや電車等であれば自家用車と比較して体積あたりの乗客人数が多く、学生や高齢の方など交通弱者にとっては生活する上で欠かすことができません。

ところが、地方圏においては公共交通が負のスパイラルにより衰退し続けています。負のスパイラルとは、公共交通よりも自家用車のほうが利便性が高い(公共交通を使わない)ことで公共交通事業者の採算がとれず、路線撤退や減便等の利便性の低下に繋がるという悪循環のことです。

このスパイラルを反転させるためには、民間の公共交通事業者の努力だけでは難しいでしょう。

公共交通を移動の基盤とするために、欧州を中心とした世界各国において、公共交通の無料化が広がっています(調査によると少なくとも98の自治体)。当初は無料にすることで公共交通利用人口を増やし、交通環境の改善を狙ったものでした。結果として、その目的を達成するどころかそれ以上の効果をあげました。エストニアの首都タリンでは、人口が41万5000人から44万人に増えたことで、運賃撤廃による税の減収を大きく上回る所得税の増収が見られたそうです。それによってサービスの質も向上し、コストのかかる運賃徴収システムの運用費も必要なくなりました。また、地方圏においてはそもそも行政の補助金がなければ公共交通は成り立たず、運賃徴収がどれだけ意味を持つのか考えなければなりません。その一方、元々公共交通が発達している都市では効果が薄くコストもかかるという報告もあり、一概に無料化すべきとはいえないようです。



【図：公共交通における負のスパイラル】

ここで重要なことは、公として支えるのはどこまでなのか、ということです。欧州と日本の公共に対する思想は異なります。

欧州では公共交通にて社会全体で利益が出るということが重要だと考えられています。社会のベースであるという位置づけで税を投入、全利用者の基礎的な交通需要に応えることを目標としています。それ故、無料化がある程度スムーズに受け入れられたと見られます。

日本では「公共交通事業で採算をとる」ことが前提となっており、無料化については財源や社会構造上の課題も出てきます。

しかしながら、従来の考え方に固執せず、各国の様々な事例により多くの社会問題解決の糸口になる可能性があるということは大いに議論すべきでしょう。

今後、持続可能な地域づくりのためには、公共交通については事業単体ではなく、地域全体としてどれだけプラスになるかという視点を持たなければなりません。

参考資料: 「[電車もバスも無料]の自治体が欧州で拡大中 なぜ無料に? | ワールド | 最新記事 | ニュースウィーク日本版 オフィシャルサイト (newsweek.jp)」, https://www.newsweek.jp/stories/world/2018/11/post-11239.php

お知らせ

ラジオで県政情報を発信しています。
番組名: モーニングサテライト 放送局: FM Haro! (76.1MHz)
放送枠: 金曜 朝 7:00 ~ 7:30 担当: 毎月第4金曜日